

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	63%	自校A B層の割合	55%
令和5年度の成果	自校A B層の割合	45.5%	自校A B層の割合	47.8%

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組(例)	<ul style="list-style-type: none"> ○単元計画の中で、児童自らが課題を設定し、解決を図ることができる学習環境を設定する。 ○高学年による教科担任制を導入し、教科指導の専門性を高める。 ○若手教員研修の充実に向け、OJT組織体制を見直す。中堅教員以上は若手教員への指導助言を通して自身の指導力向上を図る。 ○ICTを活用し、児童同士の考えに触れられる環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数・国語の基礎基本の定着を図るため、毎週木曜日にデジタルドリルを活用した朝学習に取り組む。 ○朝読書や保護者ボランティアによる読み聞かせを充実させ、いろいろな図書に慣れ親しめる環境をつくる。 ○木曜日の給食後に10分間の「よむよむタイム」を設定し、新聞教材を活用したワークシートに取り組む。(5・6年生は通年、4年生は後期のみ) ○東京ベーシックドリル診断テストを学期に1回実施・分析をする。(4・5年は区学力定着度調査) ○区学力定着度調査を基に算数カルテを作成し、朝学習ではドリルパークに取り組む。(4・5年生のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「江戸川っ子study week!」の取組の際に家庭学習カードを活用して学習習慣の定着を図る。 ○漢字学習や算数の課題を毎日出す。 ○ドリルパークを活用し、国・算・理・社などの課題を出す。 ○保護者への家庭学習の大切さを啓発する取り組みを行う。(保護者会、HP、学校・学年だより等)
特に支援が必要な児童への手立て(例)	<ul style="list-style-type: none"> ○学年アシスタントを活用し、個に応じた学習や生活指導をきめ細やかに行う。 ○学習内容だけでなく、学習に向かう姿勢や習慣についても認める言葉掛けをする。 ○場面に応じて手本などの具体物や視覚的教材等を用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ドリルパーク等で苦手分野の復習を実施する。 ○「自分なりのめあて」を先生と相談しながら決め、単元のまとまりごとに振り返りができるように支援する。 ○家庭学習のプリントの丸付けを家庭に依頼し、担任と保護者とで学習内容の定着具合の共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後補習事業者と連携して、家庭学習に取り組む時間を設定する。 ○ドリルパークを活用し、毎日取り組む問題数などを決める。 ○取り組む量や行い方を児童と相談して決めるなど個に応じた指導を行う。
成果指標	○全国学力調査質問用紙 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」 肯定的な回答 70% 以上	○全国学力調査質問用紙 「国語の学習内容はよく分かりますか」 「算数の学習内容はよく分かりますか」 肯定的な回答の割合 83% 以上	○全国学力調査質問用紙 「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか」 1時間以上 70% 以上